

再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

事業名 一般国道329号 金武バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 沖縄総合事務局
起終点 自：沖縄県国頭郡金武町字金武中川 至：沖縄県国頭郡金武町字金武浜田		延長 5.6km
事業概要 一般国道329号は、名護市を起点とし本島東海岸を南下し那覇市に至る延長約76kmの主要幹線道路である。金武バイパス区間の金武町金武中川から金武浜田にかけては、急カーブや急勾配など線形不良箇所が複数あり、交通事故のおそれが非常に多い箇所となっている。また、沿道は住宅、商店、公共施設等が密集しており、交差点や車両乗り入れ口も多く、幹線道路としての機能が低下している。金武バイパスは交通安全の確保、朝夕の交通混雑の解消、地域交流の促進、幹線道路としての機能向上に大きく寄与する道路である。		
H3年度事業化	H1年度都市計画決定	H6年度用地着手
H7年度工事着手		
全体事業費 152億円	事業進捗率 51%	供用済延長 0.8km
計画交通量 8,300台/日		
費用対効果分析結果	総費用 (残事業)/(事業全体) 67.9/167.2 億円 (事業費：47.4/146.7 億円) (維持管理費：20.5/20.5 億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 183.1/183.1 億円 (走行時間短縮便益：154.9/154.9億円) (走行費用減少便益：14.0/14.0億円) (交通事故減少便益：14.2/14.2億円)
B/C (事業全体) 1.1 (残事業) 2.7		基準年 平成17年
事業の効果等 ・円滑なモビリティの確保（並行する区間の渋滞損失時間が約9割減） ・線形不良区間の解消（安全快適な走行性の確保） 他8項目に該当		
関係する地方公共団体等の意見 地元金武町では、本事業のスケジュールに合わせた町道事業の採択、また特産品物産センターのオープンがなされており、全体の整備効果を高めるべく早期建設の要望が出されている。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 金武町特産品物産センターのオープン、総合保健福祉センターの開設など、当該路線を中心としたまちづくりの動きが見られる。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 1工区L=900mのうち、800mを供用済み。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 平成22年度末 3工区（町道111号線交差点～金武町字金武浜田）部分供用		
施設の構造や工法の変更等 設計幅員の見直し及び建設発生土の調整等によりコスト縮減を図った。 今後の施工に関しても、新技術の活用など、更なるコスト縮減を図る。		
対応方針 事業継続		
対応方針決定の理由 以上の状況を勘定すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図		
 <p>金武バイパス</p>		

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。